

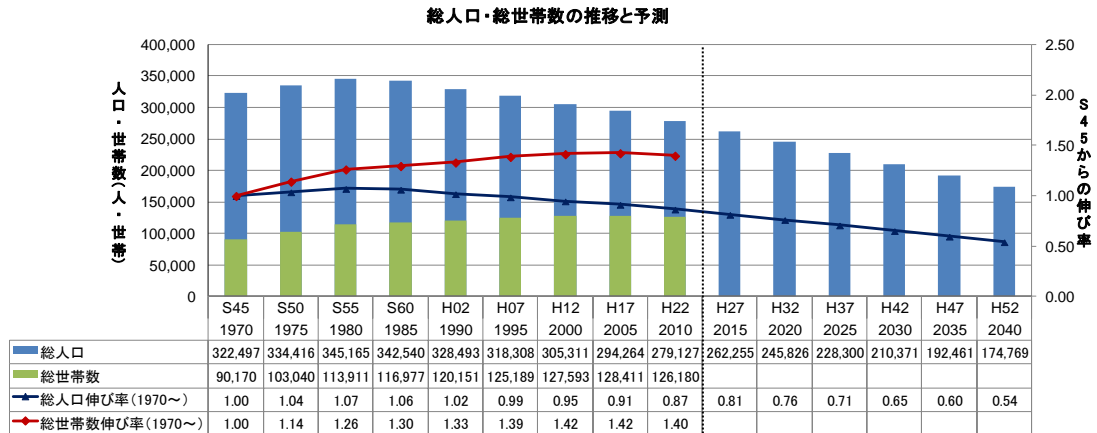
2 函館市の現状等

(1) 社会経済状況

ア 人口および世帯

(ア) 人口・世帯数の推移と予測

- 人口は、昭和 55 年（1980）の 345,165 人をピークに減少している。
- 世帯数は、核家族化の進展により増加し続けていたが、平成 17 年（2005）の 128,411 世帯をピークに減少に転じている。

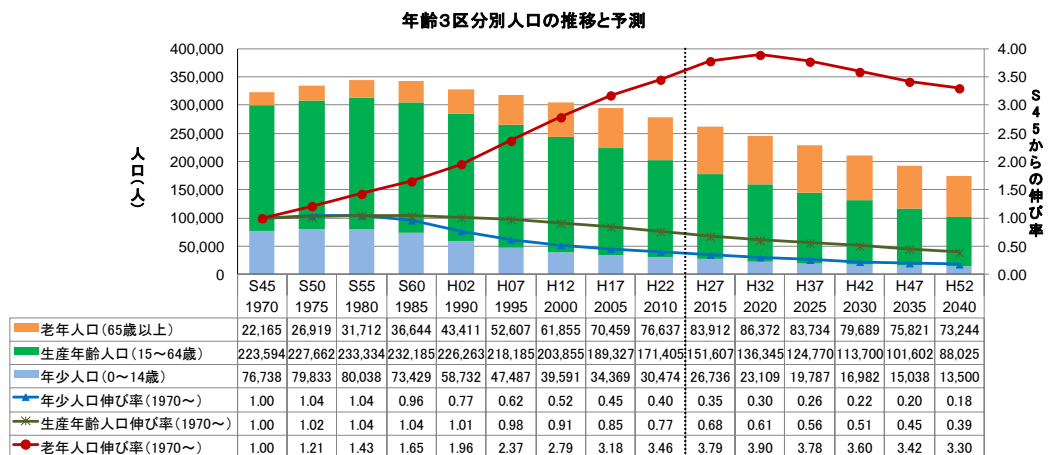


※旧 4 町村含む

資料：国勢調査，国立社会保障・人口問題研究所推計

(イ) 年齢 3 区分別人口の推移と予測

- 3 区分別人口は、年少人口が昭和 60 年，生産年齢人口が平成 2 年以降，人口の伸びと同じように減少しているが，老年人口は増加しており，少子高齢化が進んでいる。
- 将来予測では，老年人口も平成 32 年以降，減少することが予測されている。

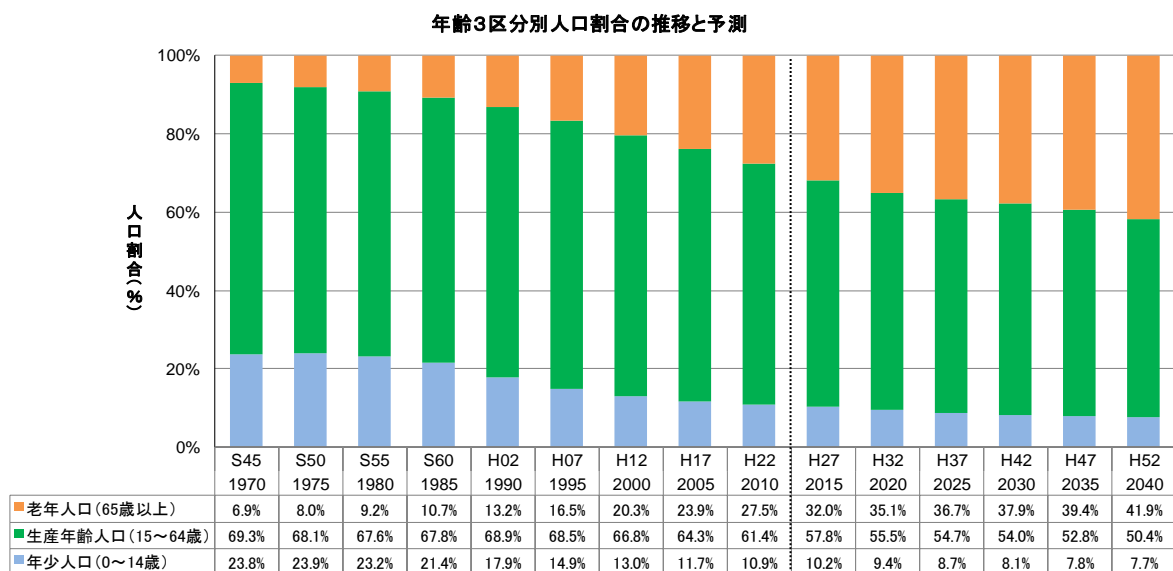


※旧 4 町村含む

資料：国勢調査，国立社会保障・人口問題研究所推計

(ウ) 年齢3区分別人口割合の推移と予測

- 平成7年に、老年人口の割合が年少人口の割合を上回るとともに、生産年齢人口の割合も減少に転じている。
- 平成7年以降は、老年人口の割合のみが増加しており、平成32年には3人に1人以上が高齢者となることが予測されている。



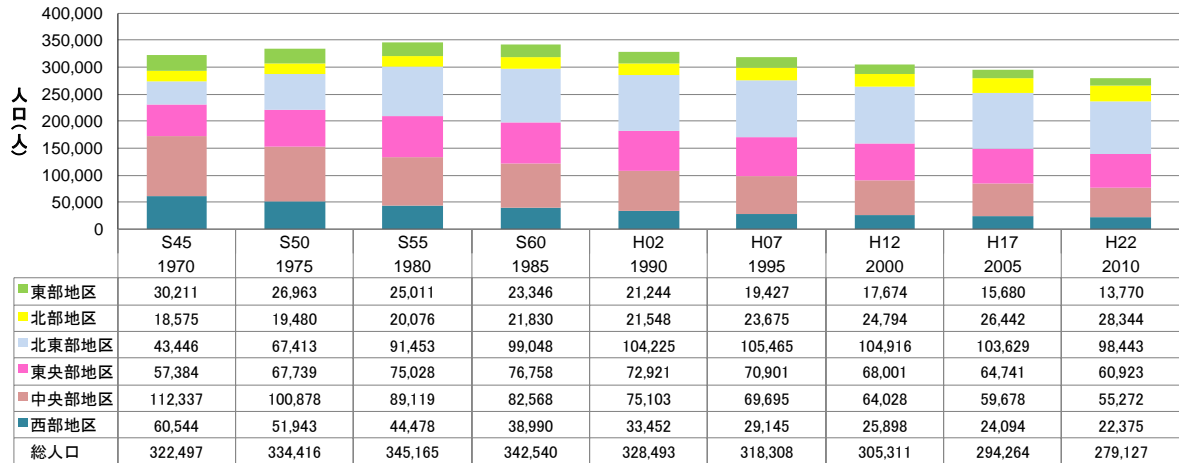
※旧4町村含む

資料：国勢調査，国立社会保障・人口問題研究所推計

(エ) 地区別人口・世帯数の推移

- 地区別人口の推移では、昭和 45 年から平成 12 年までは、東部・中央・西部地区で大きく減少している一方、北部・北東部地区では大きく増加している。
- 平成 12 年以降は、北部地区のみ増加している。

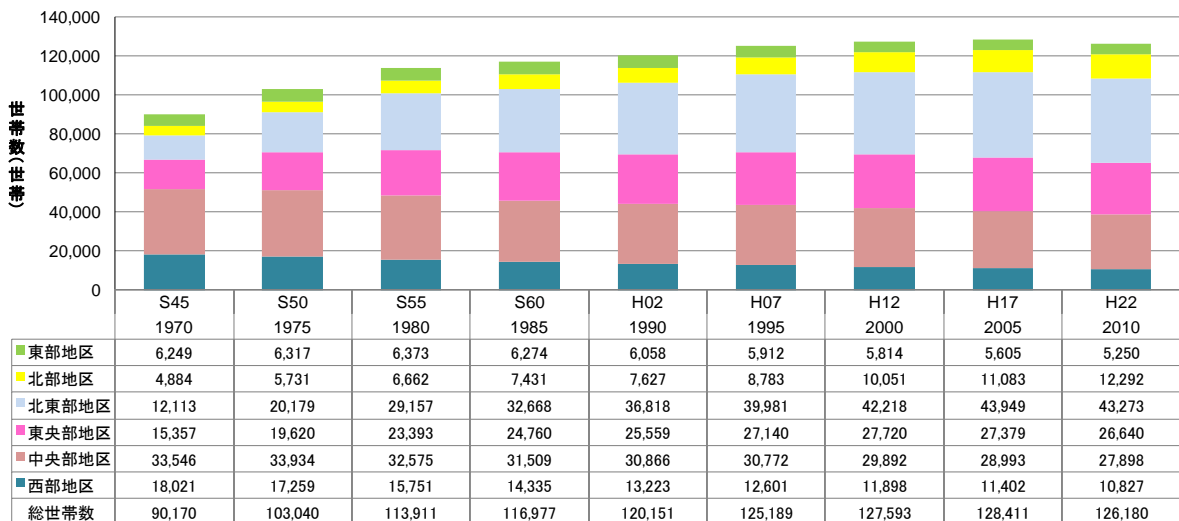
地区別人口の推移



資料：国勢調査

- 総世帯数は平成 17 年以降減少しているものの、人口ほどの減少とはなっていない。
- 平成 12 年以降は、北部地区のみ増加となっている。

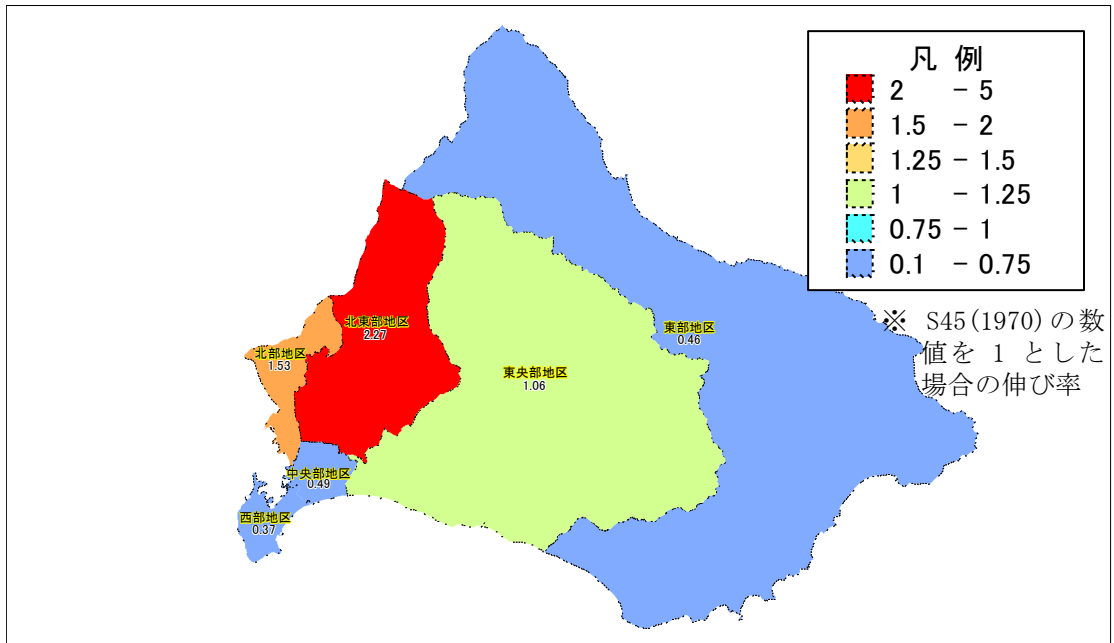
地区別世帯数の推移



資料：国勢調査

a 人口伸び率比較【S45(1970)–H22(2010)】

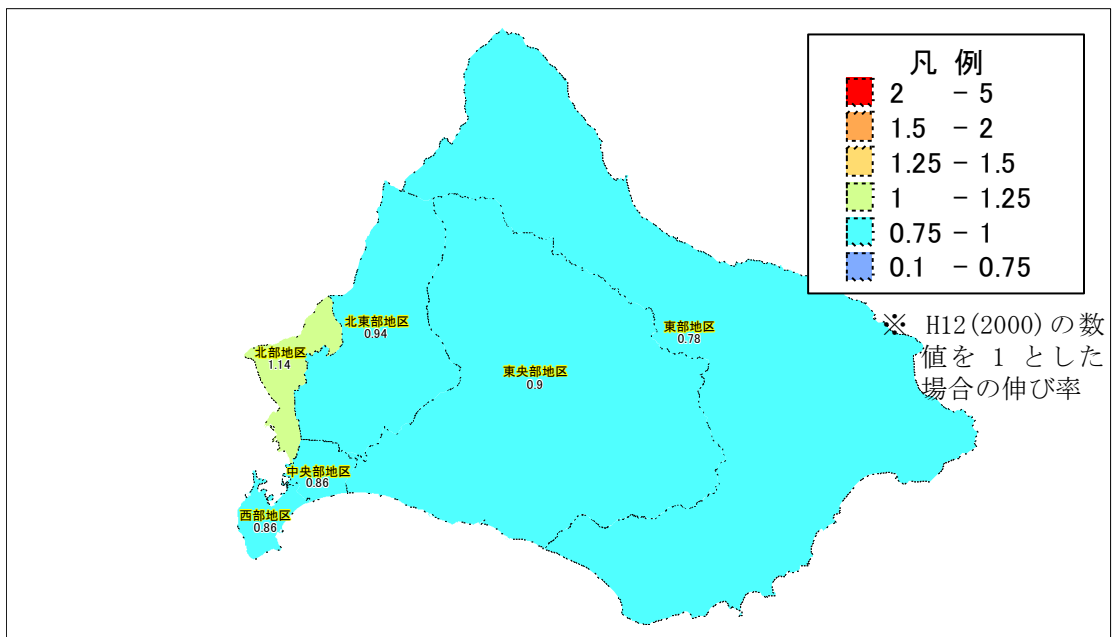
■ 40年前と比較すると、産業道路沿いの地区を含む北部・北東部・東中部地区で増加しており、特に北東部地区では2倍以上に増加している。



資料：国勢調査

b 人口伸び率比較【H12(2000)–H22(2010)】

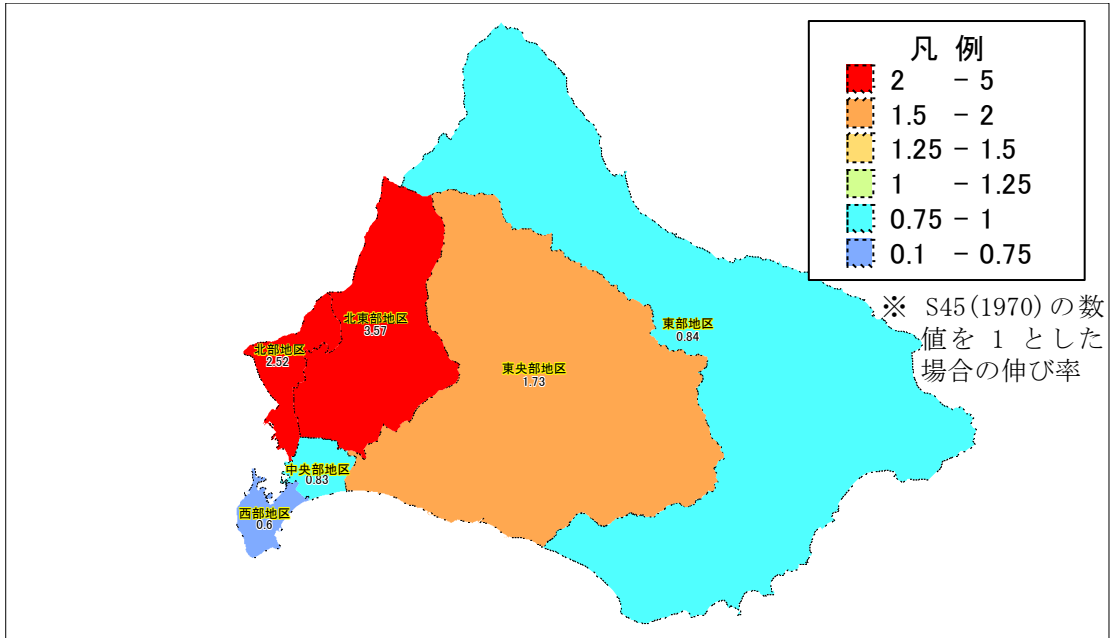
■ この10年間では、北部地区のみが増加し、北東部地区でも減少している。



資料：国勢調査

c 世帯数伸び率比較【S45(1970)–H22(2010)】

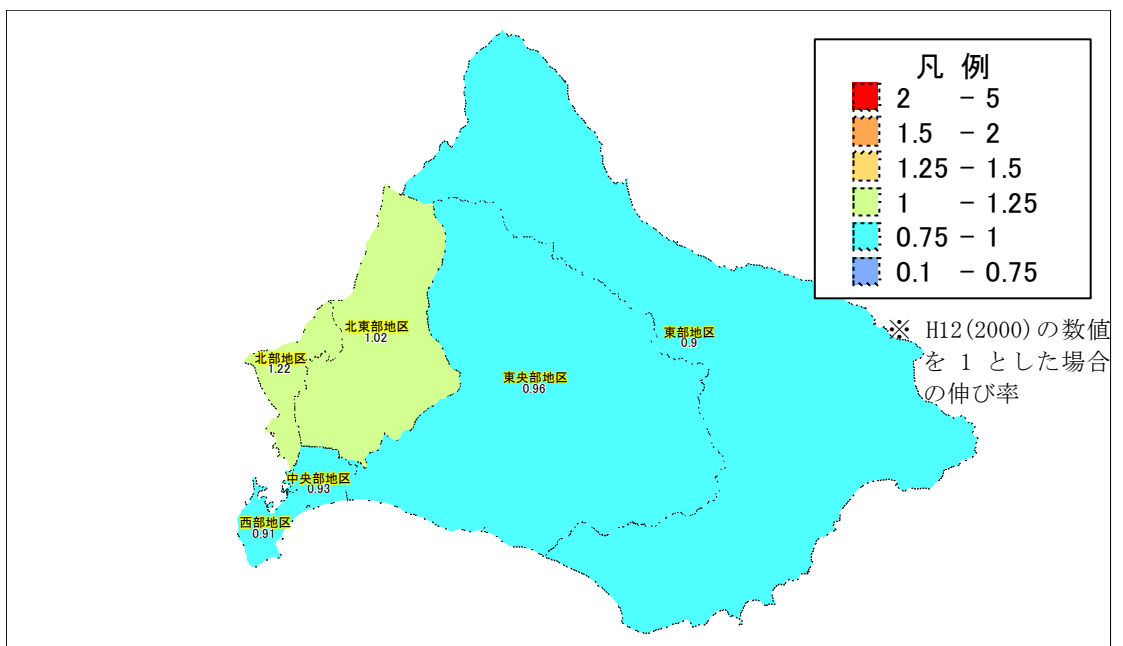
■ 40年前と比較すると、人口同様、産業道路沿いの地区を含む北部・北東部・東央部地区で増加しており、特に北東部地区では3倍以上の増加となっている。



資料：国勢調査

d 世帯数伸び率比較【H12(2000)–H22(2010)】

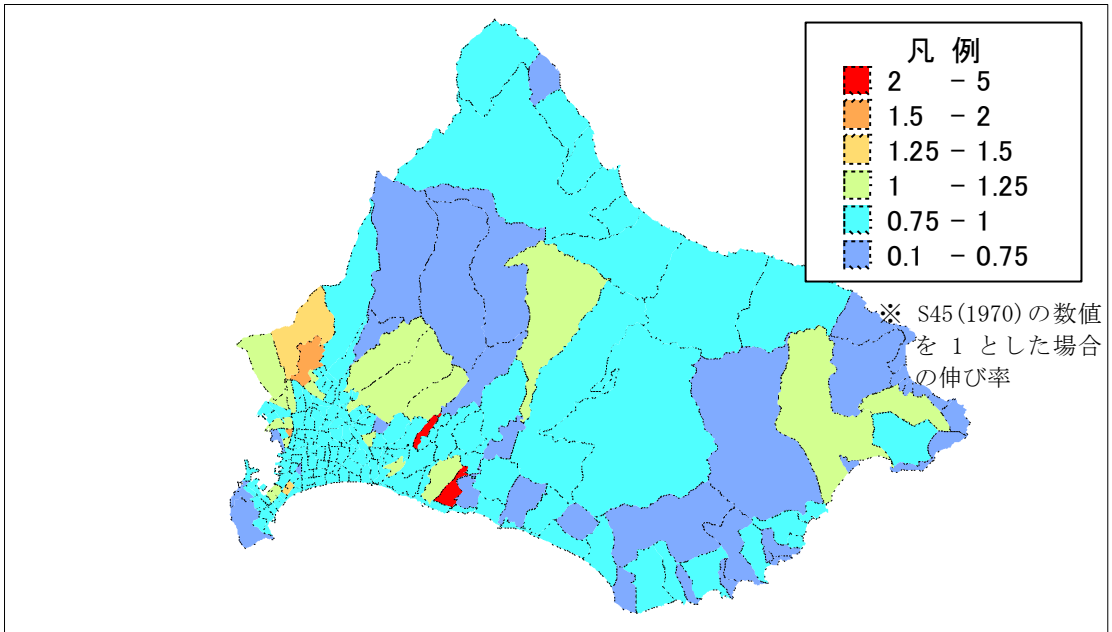
■ ここ10年間では、北部・北東部地区のみが増加し、北東部地区では、ほぼ横ばいとなっている。



資料：国勢調査

e 町丁別人口伸び率比較【S45(1970)-H22(2010)】

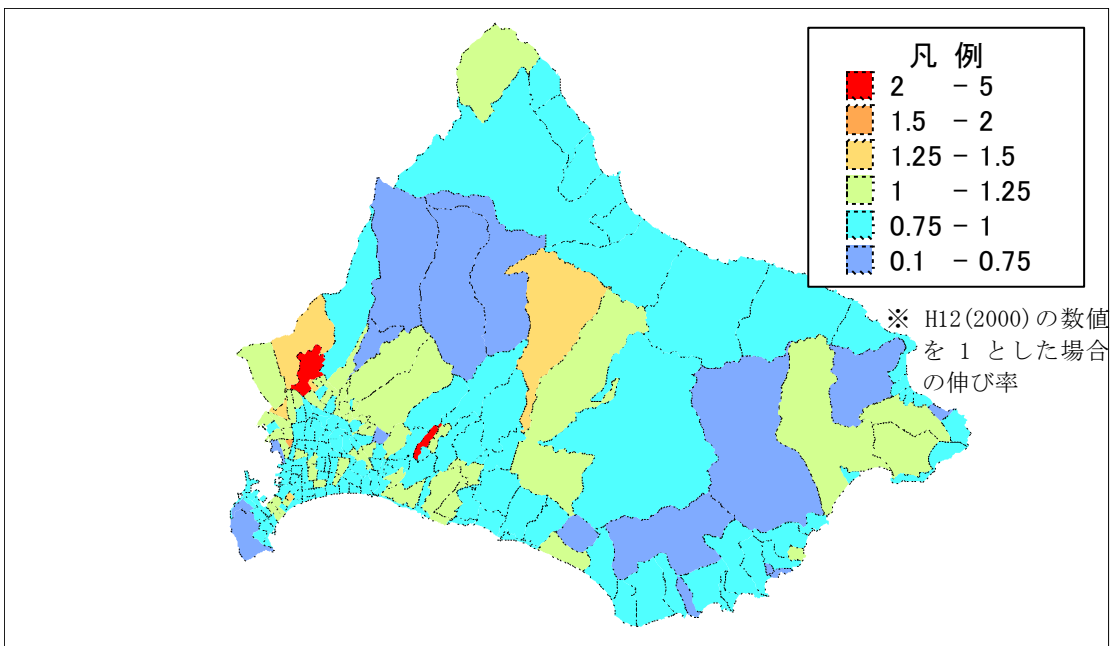
■ 40年前と比較すると、北部地区の桔梗周辺で人口が増加しているほか、郊外部での人口が増加している。



資料：国勢調査

f 町丁別世帯数伸び率比較【H12(2000)-H22(2010)】

■ 10年前との比較では、人口と同様の傾向となっているほか、市電沿線の一部で増加している地域がある。

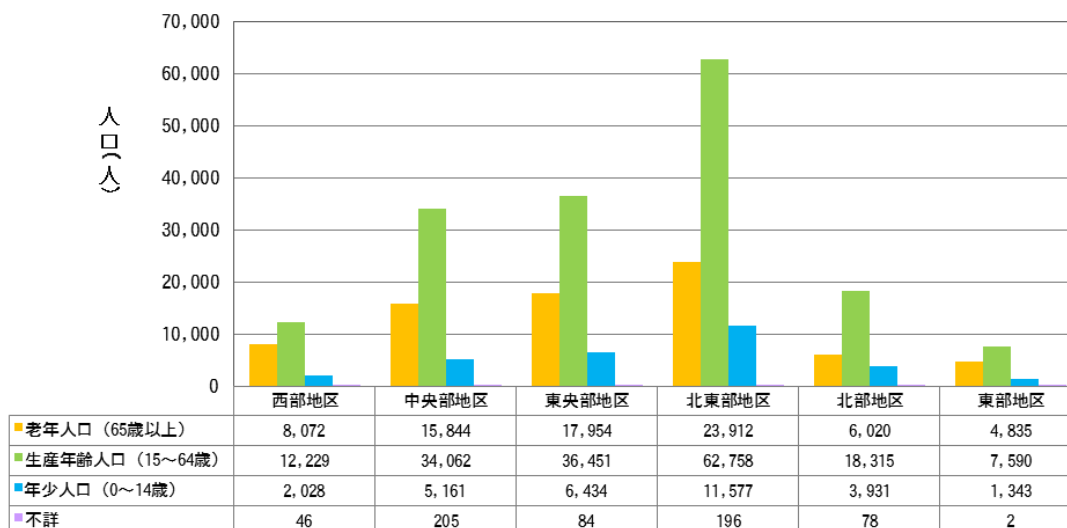


資料：国勢調査

(オ) 地区別年齢3区分別人口

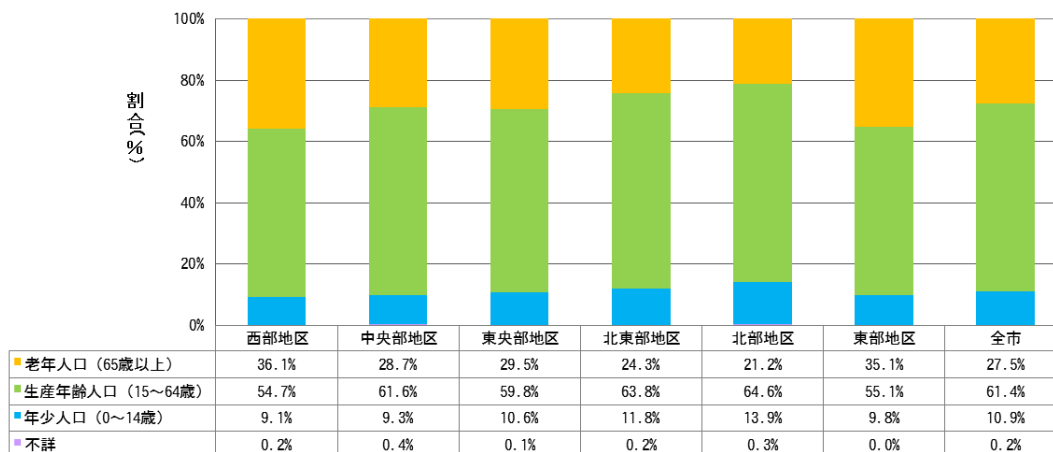
■ 西部・東部地区では、老年人口の割合が高く、近年、人口と世帯数が増加している北東部・北部地区においては、年少人口の割合が高くなっている。

地区別年齢3区分別人口【H22(2010)】



資料：国勢調査

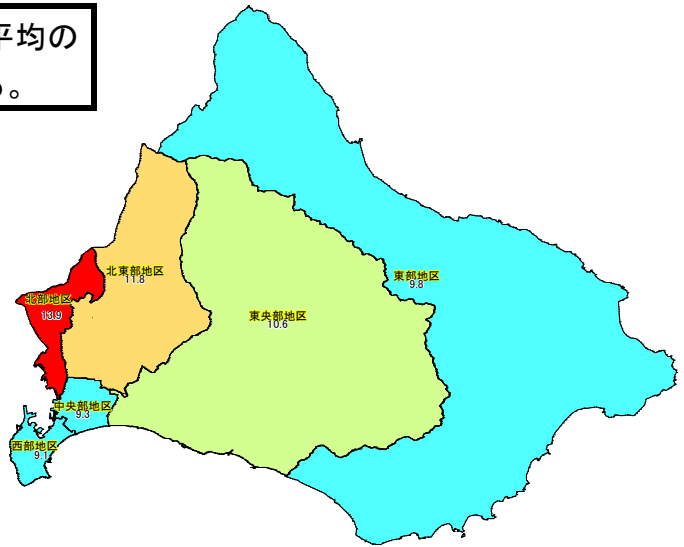
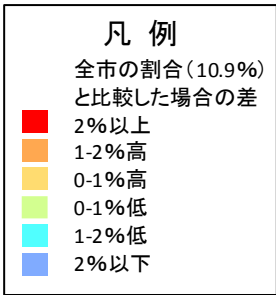
地区別年齢3区分別人口割合【H22(2010)】



資料：国勢調査

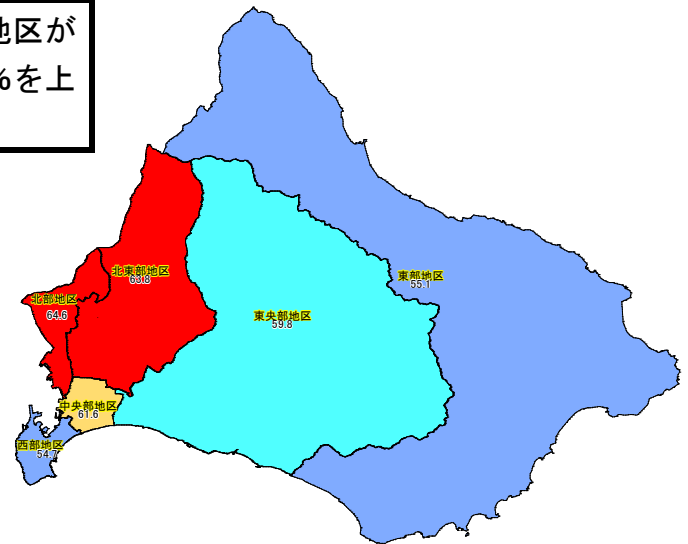
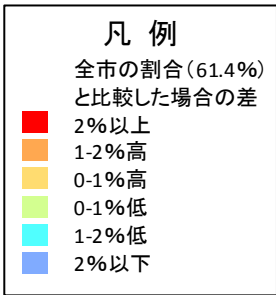
a 地区別年少人口割合

■ 北部地区が13.9%と、全市平均の10.9%を大きく上回っている。



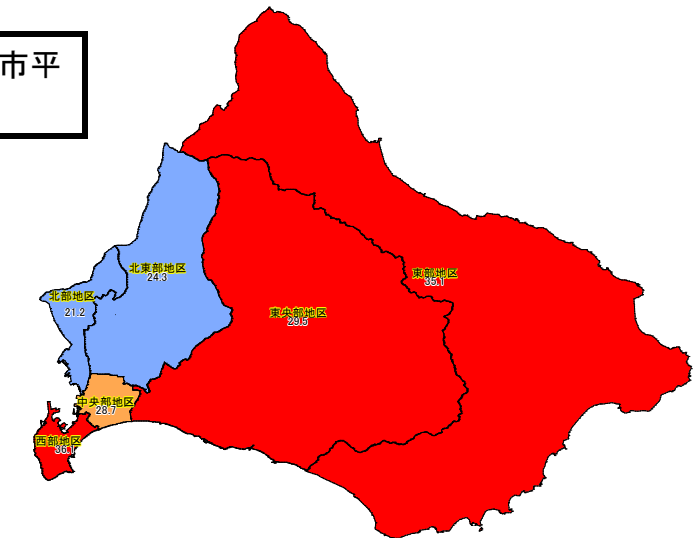
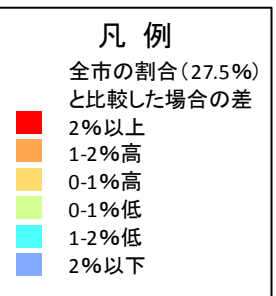
b 地区別生産年齢人口割合

■ 北部地区が64.6%、北東部地区が63.8%と、全市平均の61.4%を上回っている。



c 地区別老年人口割合

■ 西部・東央部・東部地区で全市平均の27.5%を上回っている。

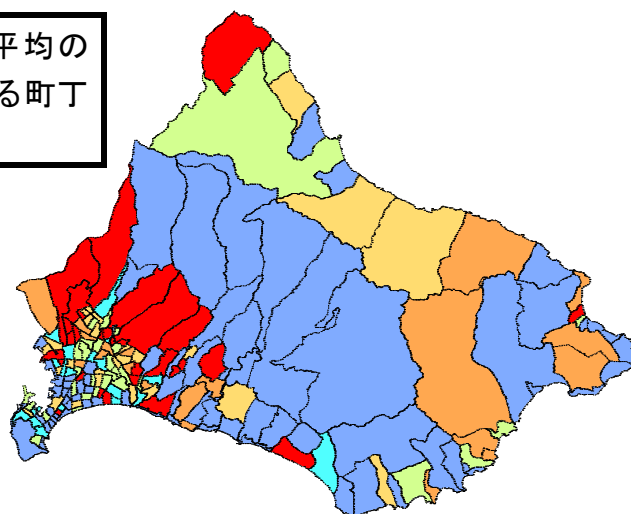
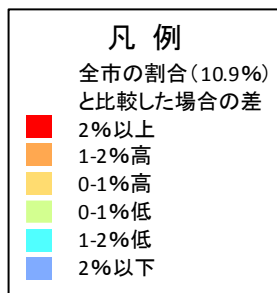


資料：国勢調査

(カ) 町丁別年齢3区分別人口

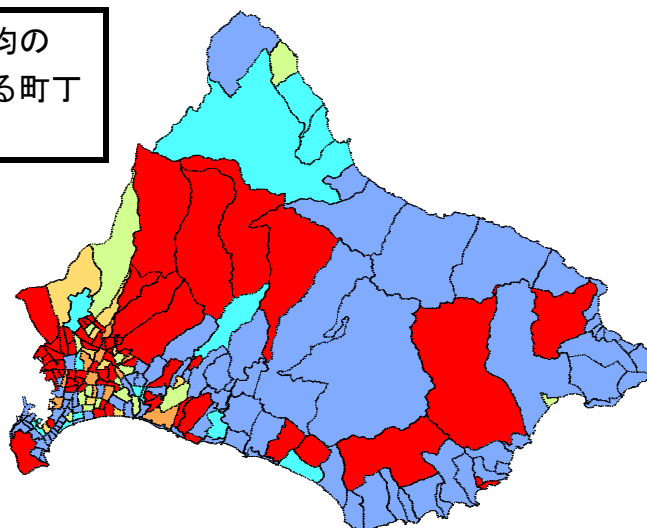
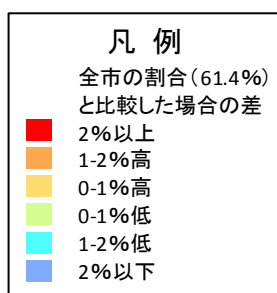
a 町丁別年少人口割合

■ 北部・北東部地区で全市平均の10.9%を大きく上回っている町丁が多くみられる。



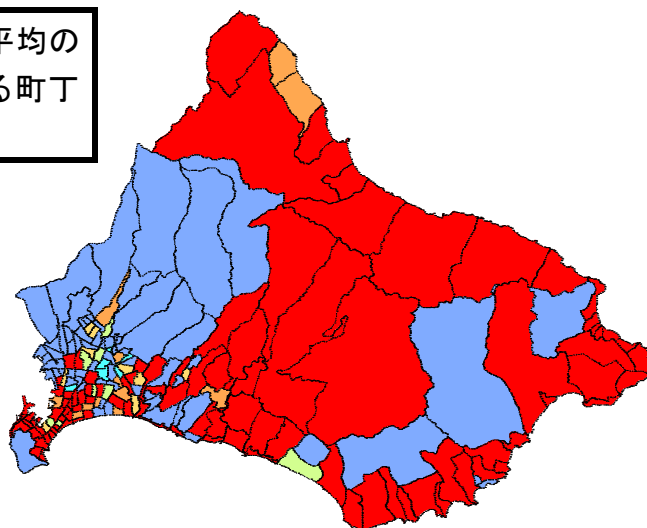
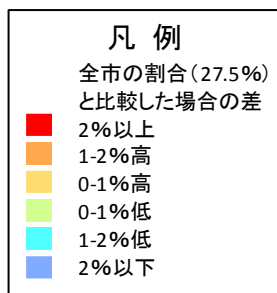
b 町丁別生産年齢人口割合

■ 北部・北東部地区で全市平均の61.4%を大きく上回っている町丁が多くみられる。



c 町丁別老年人口割合

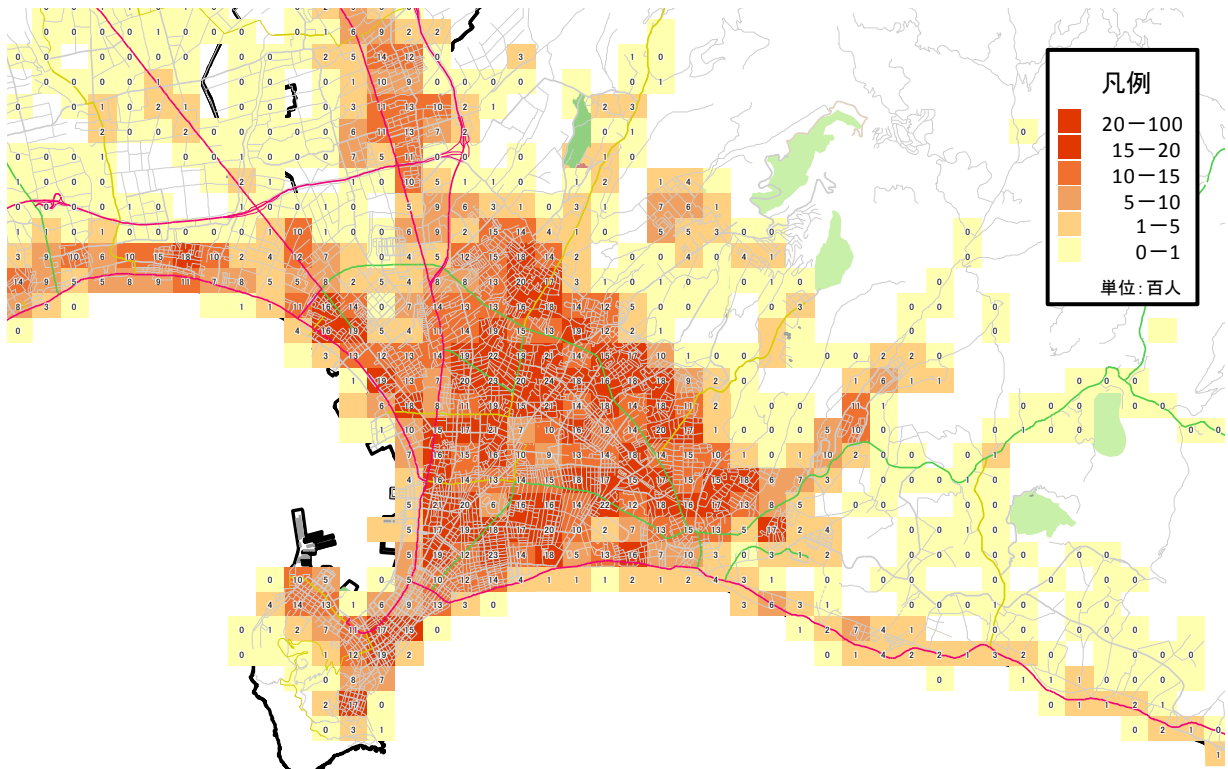
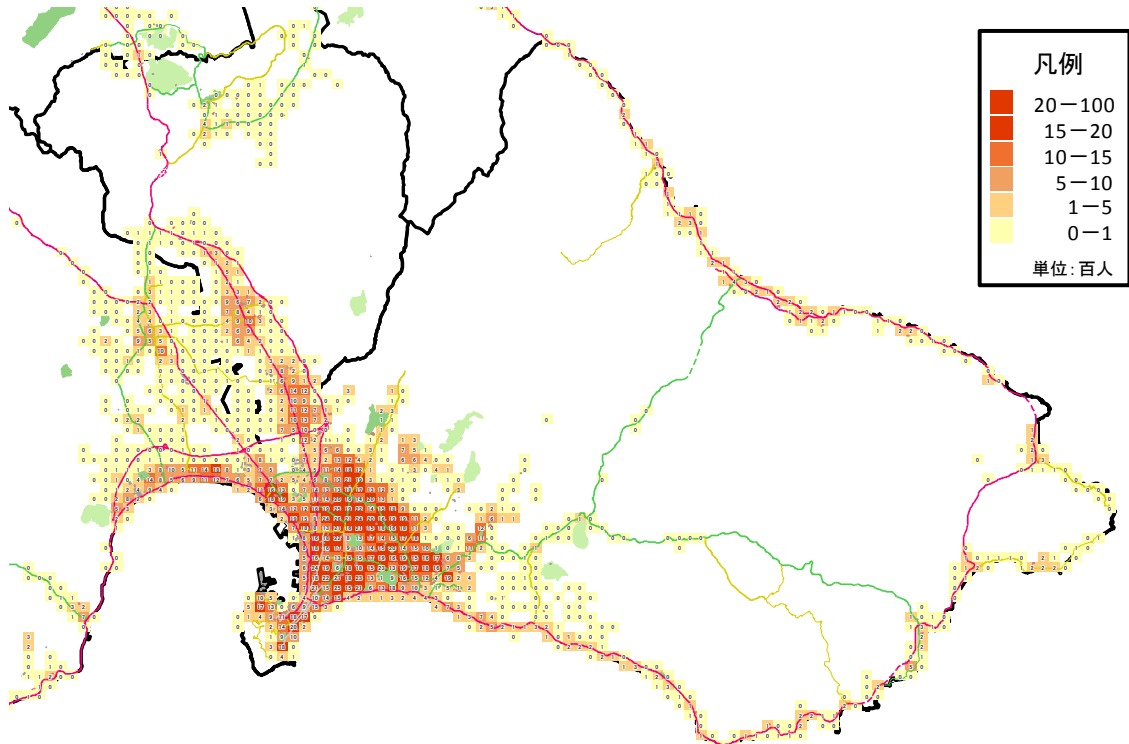
■ 市電沿線と東部地区で全市平均の27.5%を大きく上回っている町丁が多くみられる。



資料：国勢調査

(キ) 500m メッシュ人口【H22(2010)】

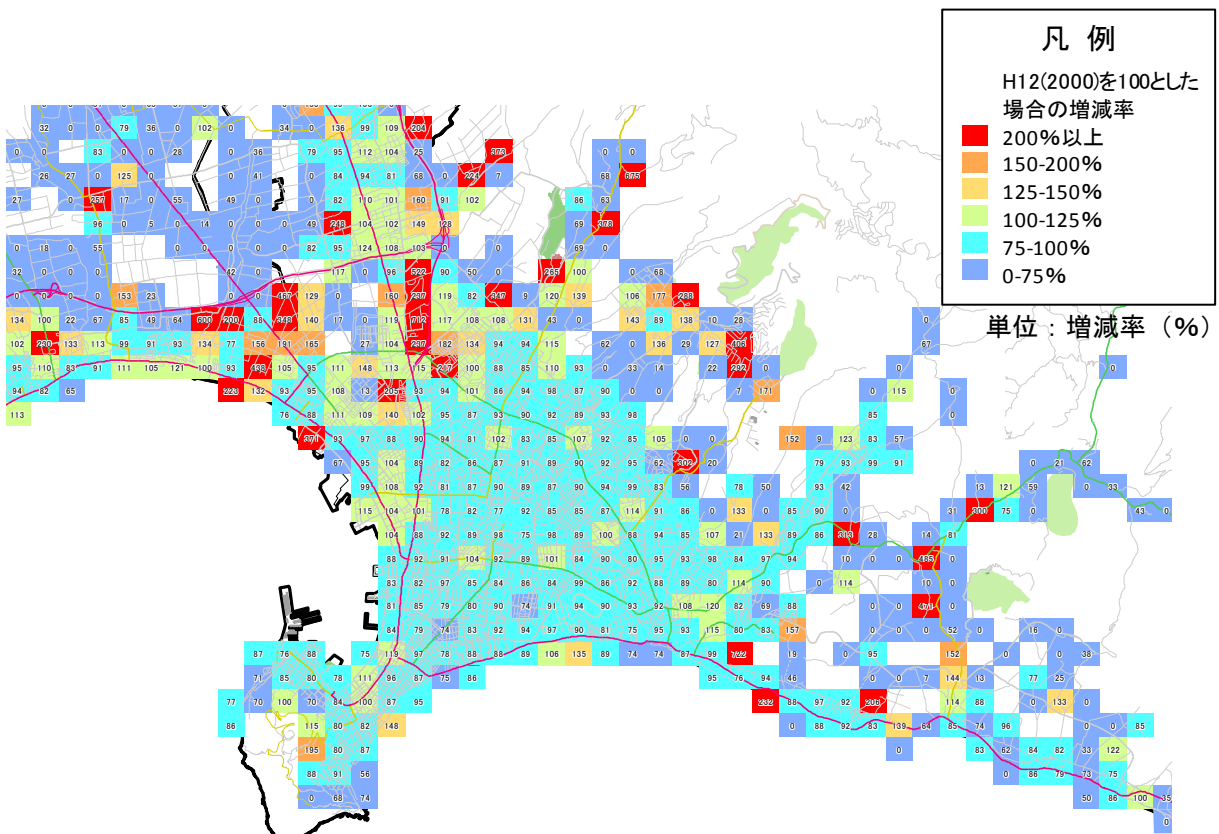
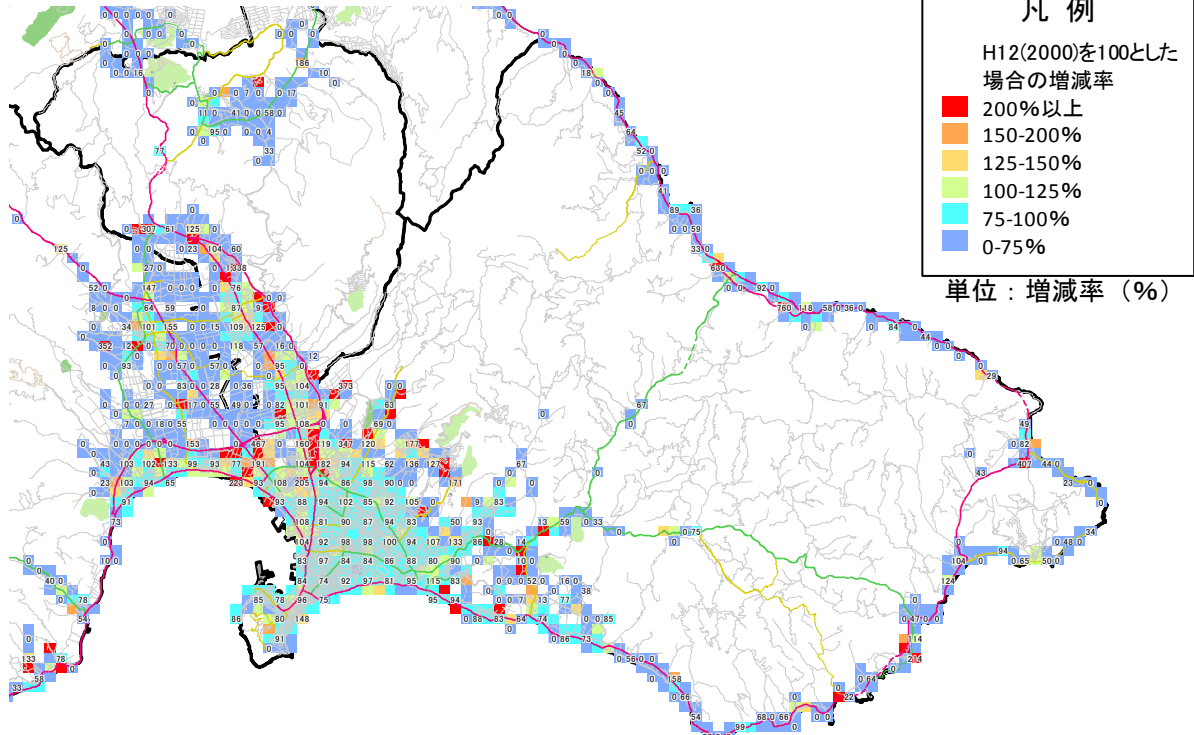
■ 産業道路沿線や五稜郭周辺などに人口が集積している。



資料: 国勢調査

(カ) 500m メッシュ人口増減率【H12(2000)-H22(2010)】

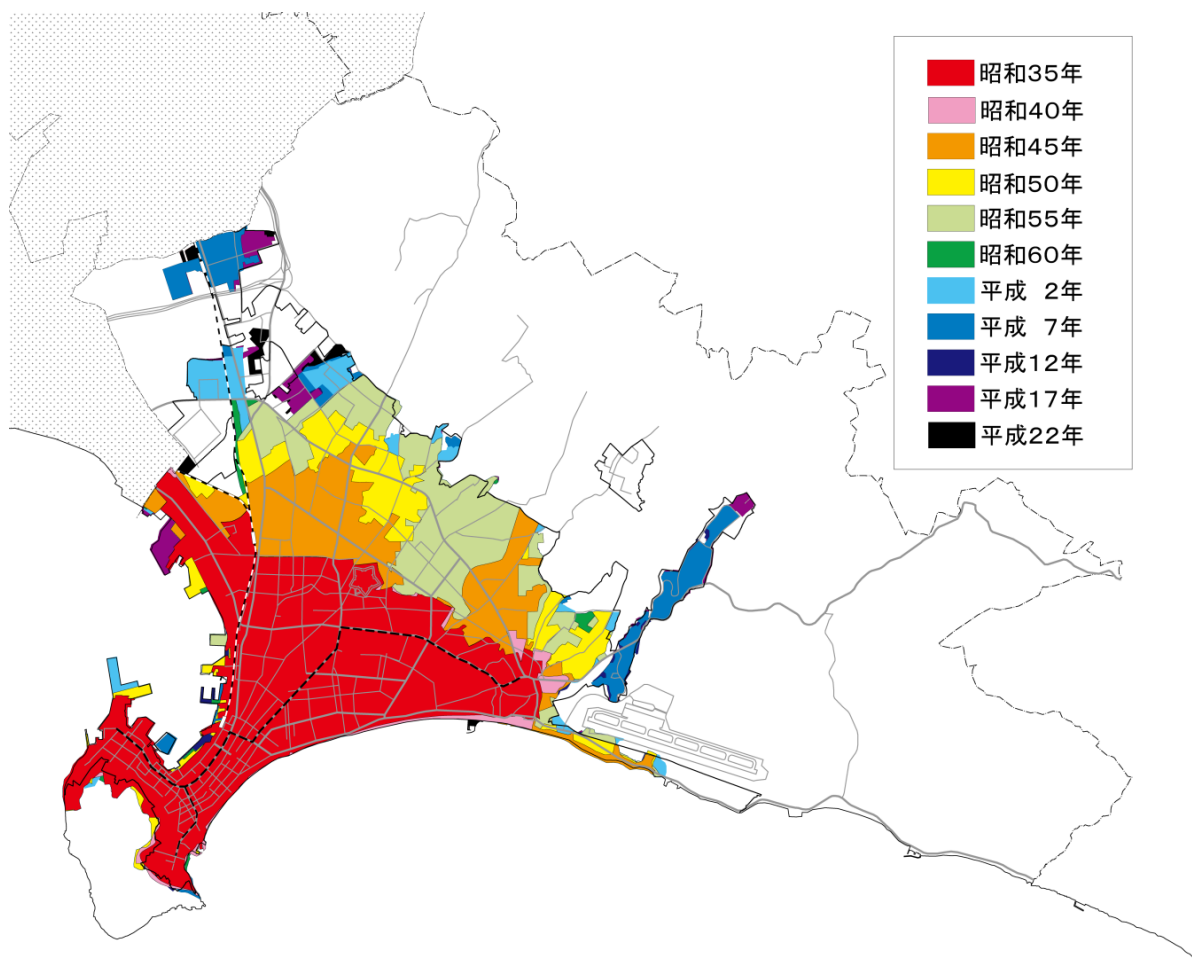
■ 産業道路沿線およびその外側と、放射系幹線道路沿線で人口が増加している。



資料：国勢調査

(ケ) DID (人口集中地区) 面積

■ 昭和 55 年までは大きく拡大したものの、平成 2 年以降は、国道 5 号と道道函館南茅部線等の放射系幹線道路周辺でのわずかな拡大となっており、平成 22 年については、市街地内の空白地域を埋める程度の拡大となっている。



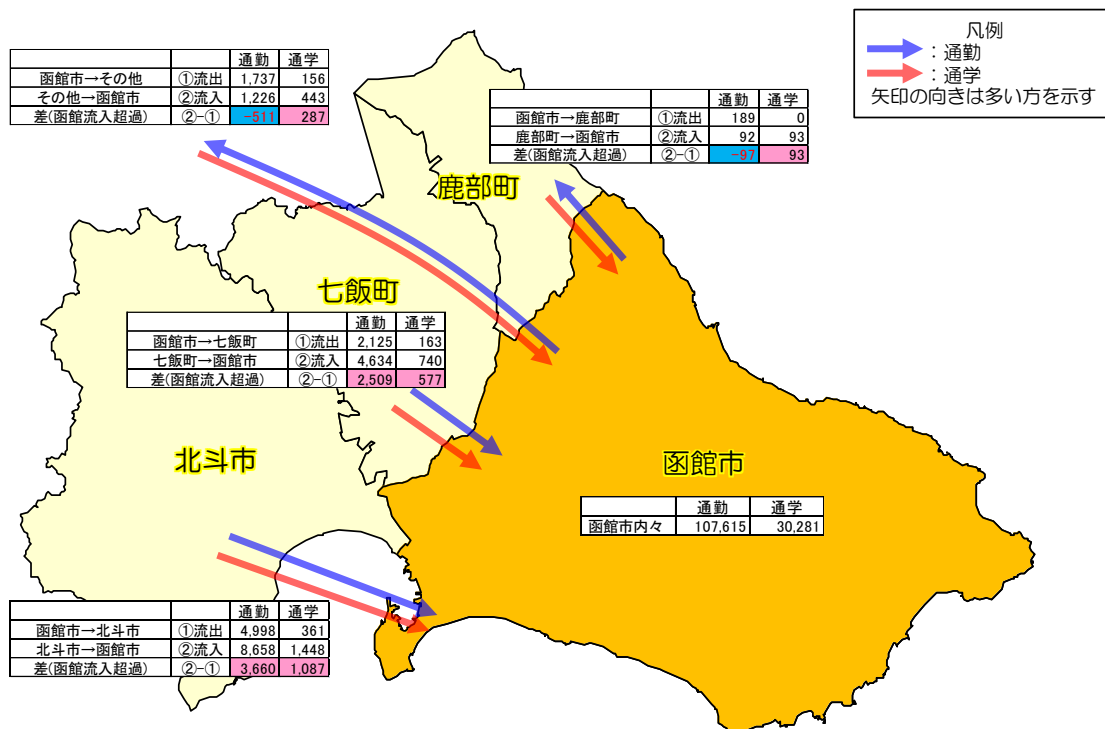
資料：国勢調査

※D I D (人口集中地区)：原則として人口密度が 1 平方キロメートル当たり 4,000 人以上の基本単位区等が市区町村の境域内で互いに隣接して、それらの隣接した地域の人口が国勢調査時に 5,000 人以上を有するこの地域を「人口集中地区 (D I D)」という。

イ 通勤・通学流動

(7) 函館市周辺の通勤・通学流動

■ 函館市と周辺市町からの通勤・通学流動では、北斗市と七飯町からの流入が多く、流入超過となっている。



資料：平成 22 年国勢調査

(イ) 函館市内常住者の従業地・通学地分布

■ 函館市内常住者の約5%が北斗市，七飯町へ通勤している。

	就業者・通学者	従業地・通学地					計
		函館市内	北斗市	七飯町	鹿部町	その他	
人	15歳以上就業者数	107,615	4,998	2,125	189	1,737	116,664
	通学者数	30,281	361	163	0	156	30,961
割合	15歳以上就業者数	92.2%	4.3%	1.8%	0.2%	1.5%	100.0%
	通学者数	97.8%	1.2%	0.5%	0.0%	0.5%	100.0%

(ウ) 函館市を従業地・通学地とする通勤通学者の常住地分布

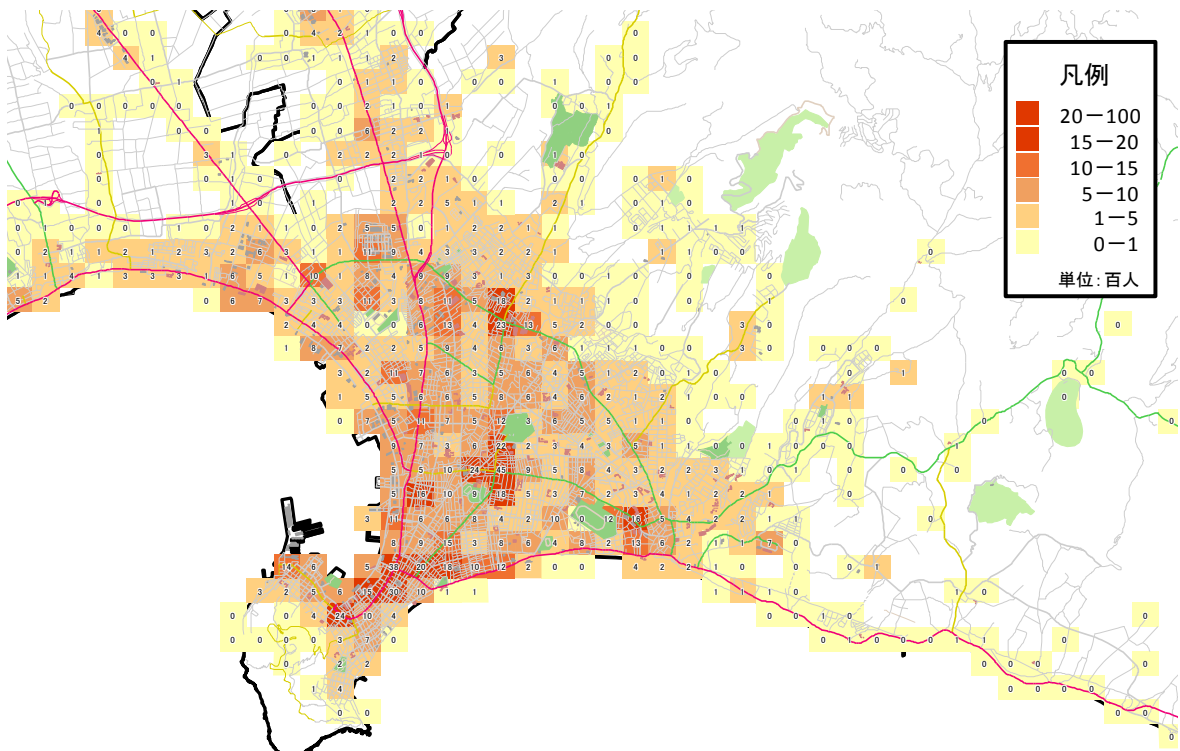
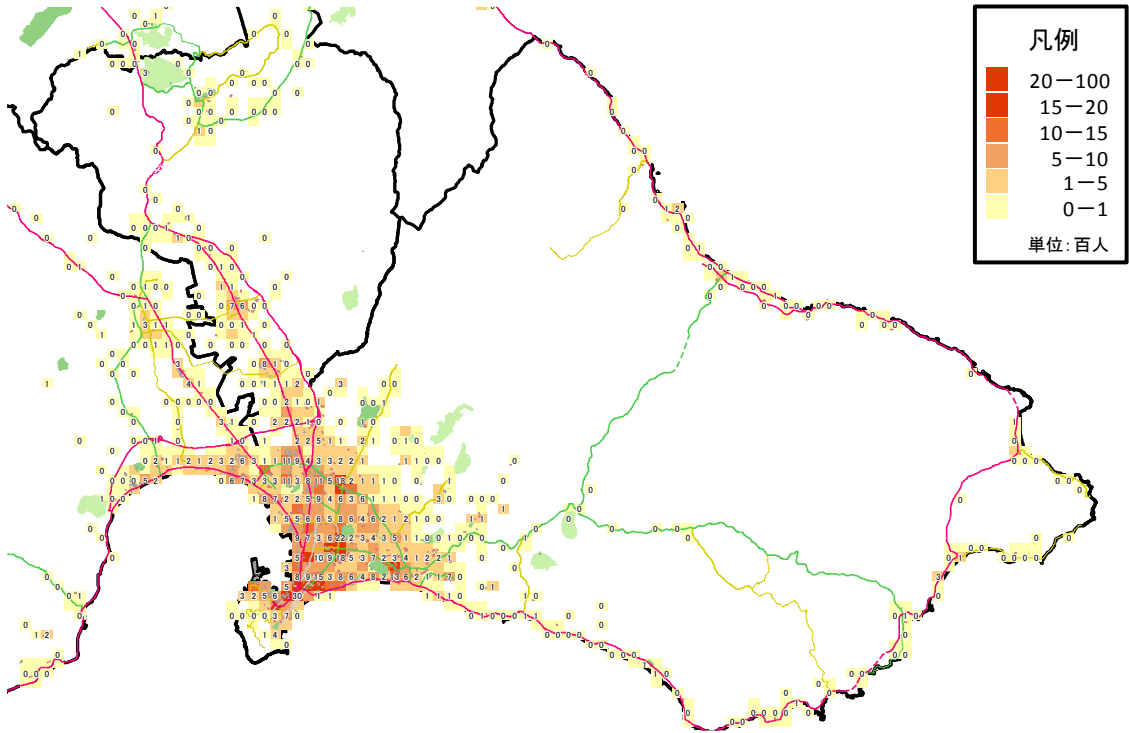
■ 北斗市，七飯町常住者の約10%が函館市へ通勤している。

	就業者・通学者	常住地					計
		函館市内	北斗市	七飯町	鹿部町	その他	
人	15歳以上就業者数	107,615	8,658	4,634	92	1,226	122,225
	通学者数	30,281	1,448	740	93	443	33,005
割合	15歳以上就業者数	88.0%	7.1%	3.8%	0.1%	1.0%	100.0%
	通学者数	91.7%	4.4%	2.2%	0.3%	1.3%	100.0%

※「函館市内」には旧4町村を含む 資料：平成22年国勢調査

(エ) 500m 従業者メッシュ【H22(2010)】

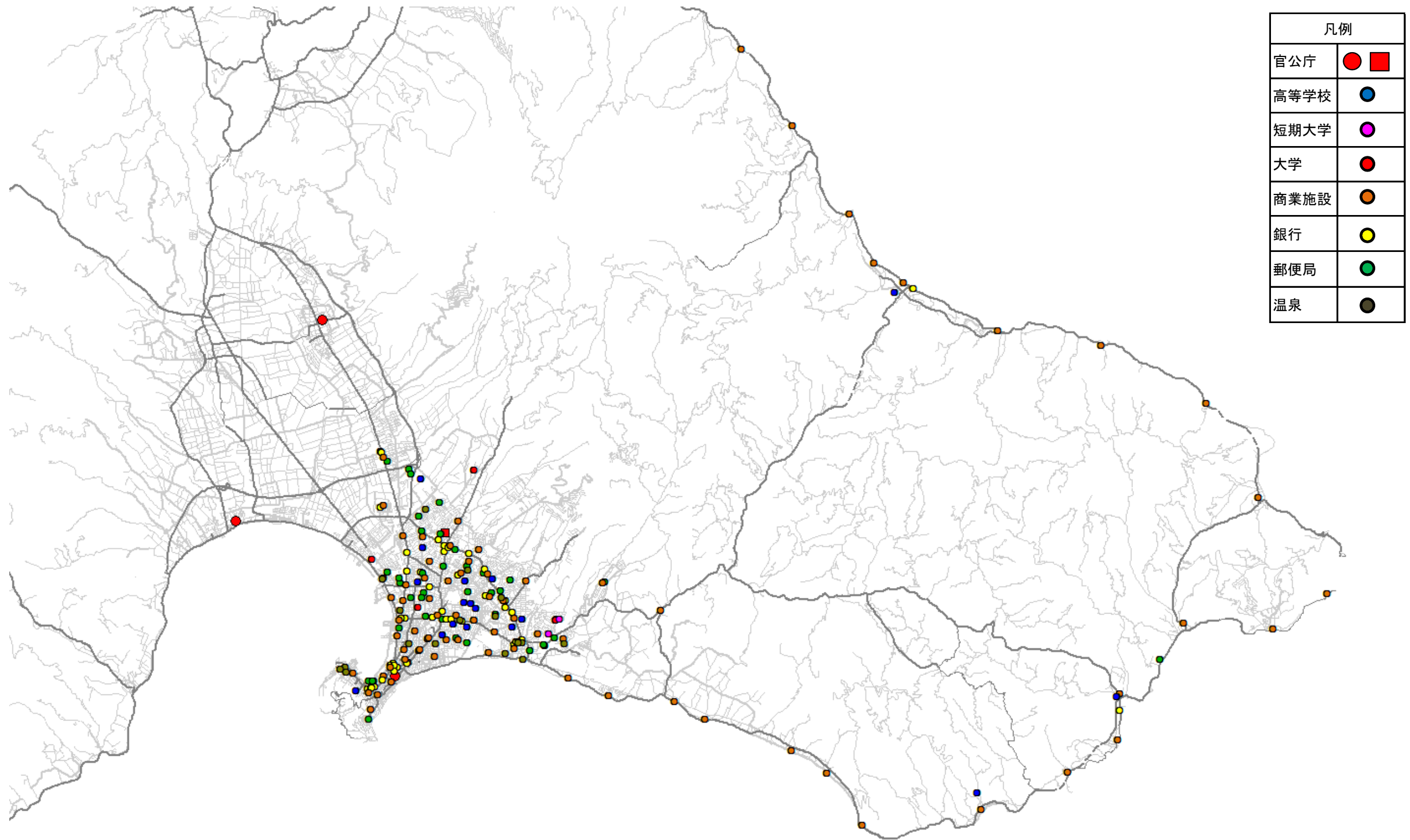
■ 函館駅前地区や五稜郭地区、美原地区、湯川地区に従業者が集積している。



資料：国勢調査

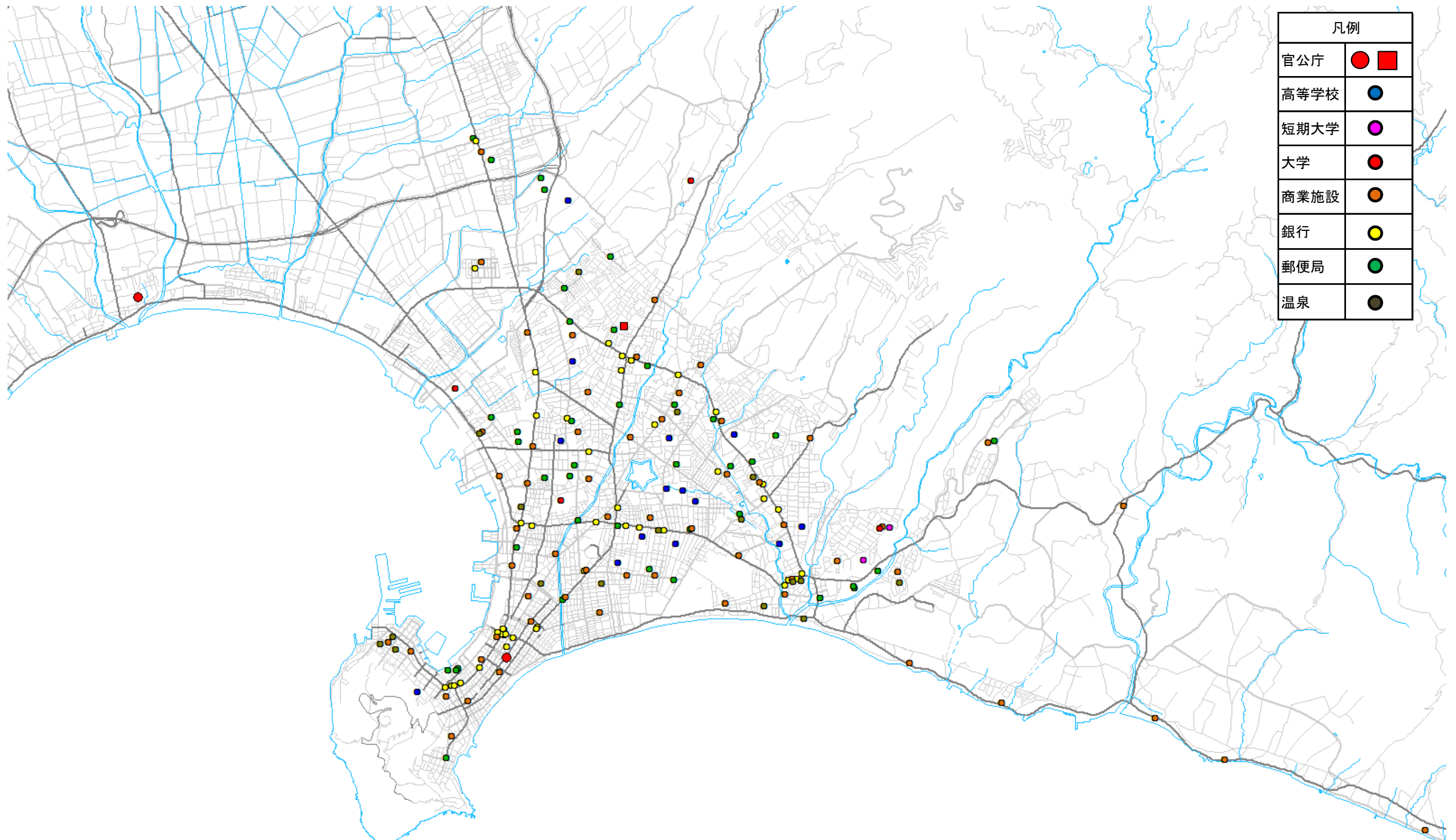
(オ) 主要施設分布【H22(2010)】

■ 函館駅前地区や五稜郭地区、美原地区、湯川地区に施設が集積している。



資料：デジタル地図データ

■ 幹線道路沿線には商業施設が多く立地し、函館駅前地区、美原地区、湯川地区、五稜郭地区周辺には銀行などの金融機関が集積している。一方で学校等については、幹線道路から一定程度離れた場所に立地している。



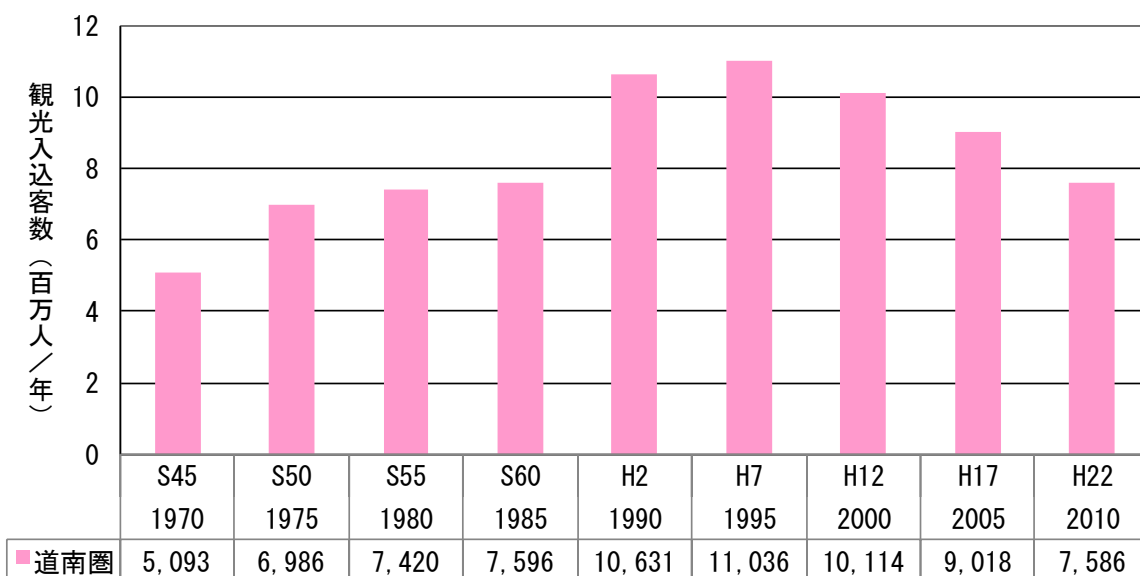
資料：デジタル地図データ

ウ 観光入込客数・動向

(7) 年度別観光入込客数の推移

- 道南圏では、平成7年度以降、観光入込客数は減少が続いている。
- 函館市の平成26年度観光入込客数は484万人となっている。

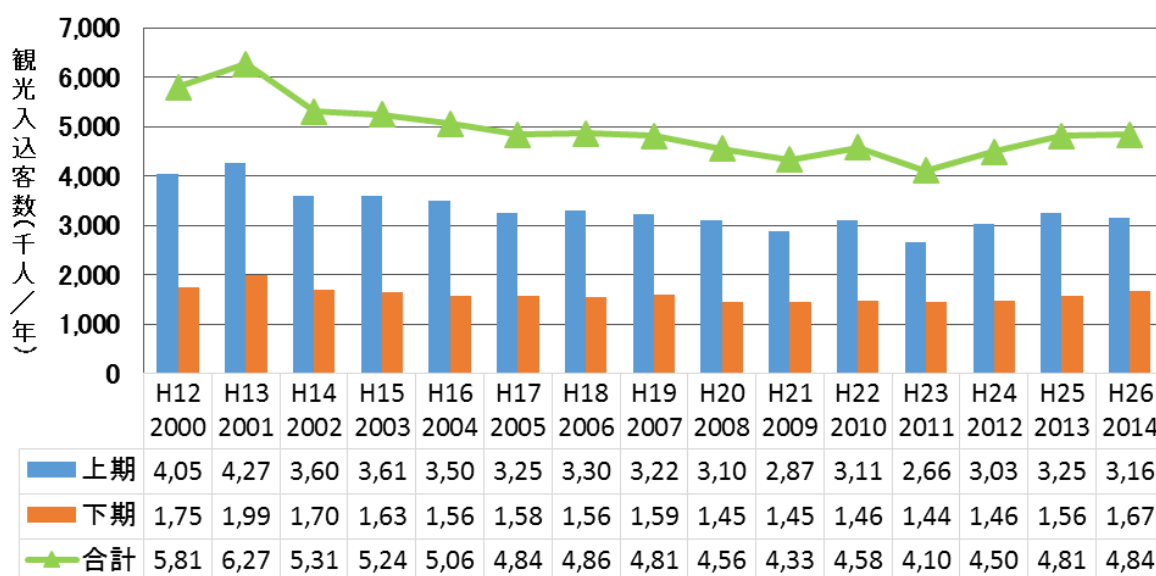
道南圏の年度別観光入込客数の推移



道南圏 (S45 以降の時系列データが完備している函館市・松前町・七飯町・恵山町・長万部町・江差町・奥尻町・のみ)

資料：北海道観光統計

函館市の年度別観光入込客数の推移



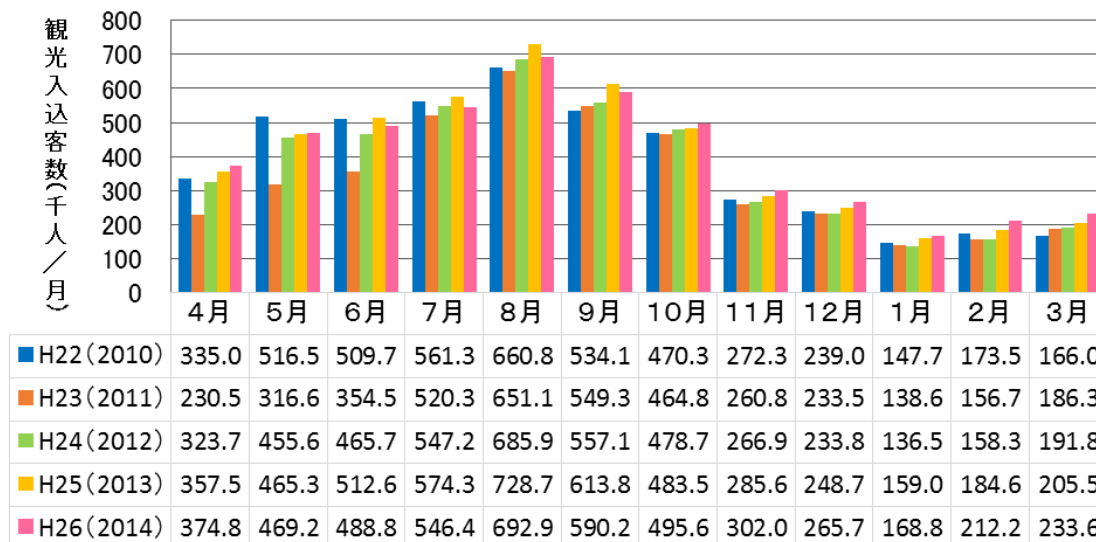
※旧4町村含む

資料：北海道観光統計

(イ) 月別観光入込客数の推移

■ 平成 23 年度の前半は、震災の影響で大きく減少したが、同年 8 月以降はほぼ例年並みとなっている。

函館市の月別観光入込客数の推移

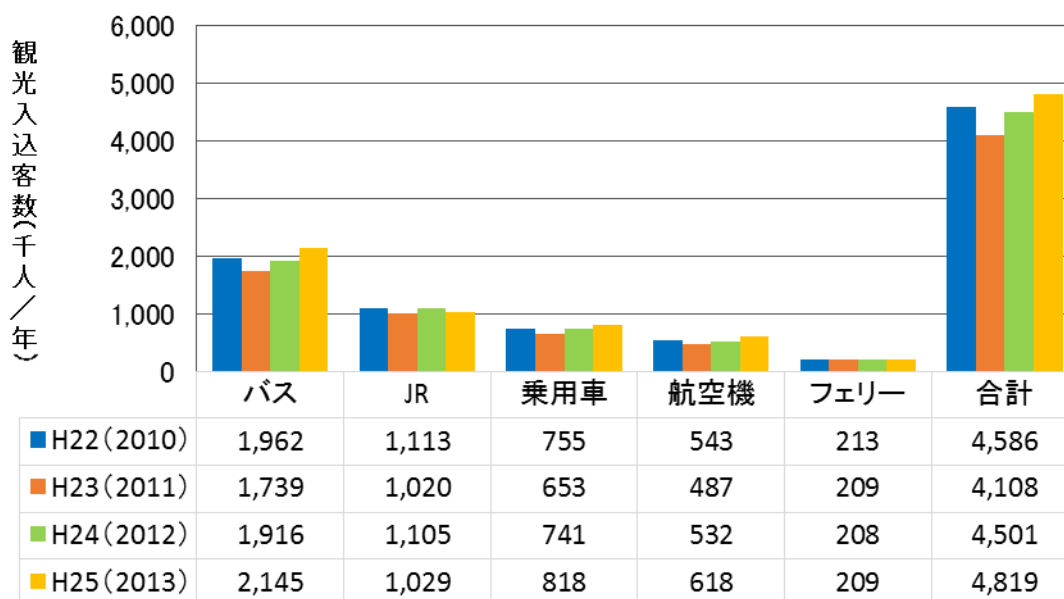


※旧 4 町村含む
資料：北海道観光統計

(ウ) 交通機関別来函観光入込客数の推移

■ すべての交通機関で安定した利用状況となっている。

交通機関別来函観光入込客数の推移

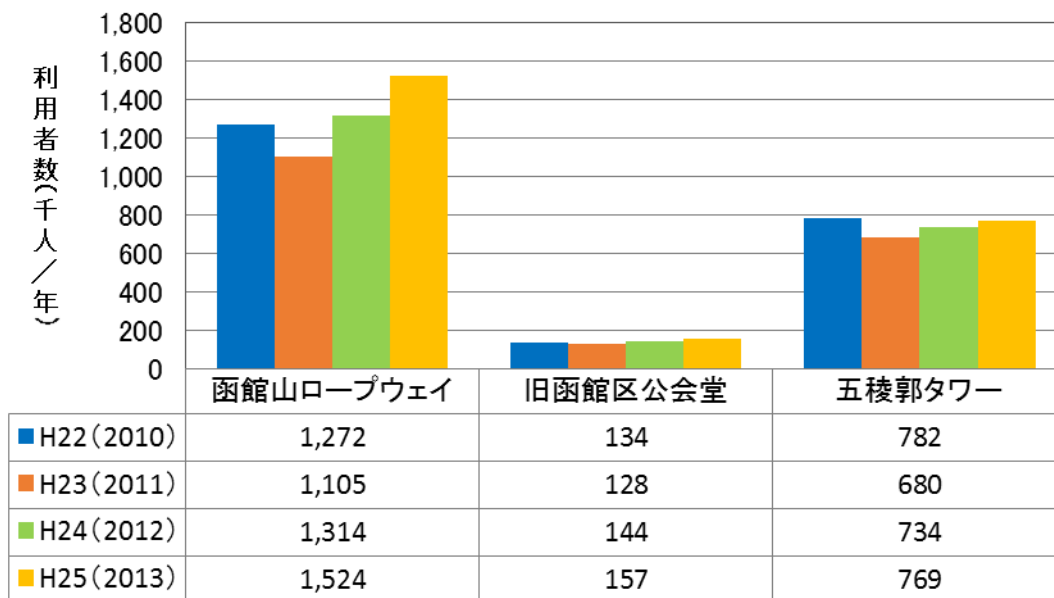


資料：函館市観光部観光振興課

(I) 函館市内における主要観光施設別利用者数の推移

■ 函館山ロープウェイの利用者数が最も多い。また、平成 23 年度以降はすべての観光施設で利用者数が増加している。

函館市内における主要観光施設別利用者数の推移

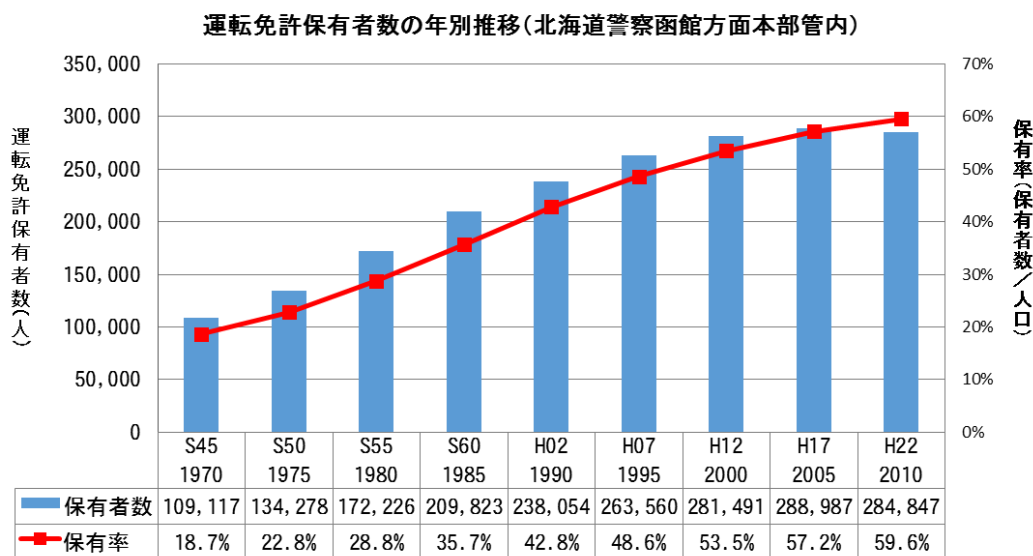


資料：函館市観光部観光振興課

エ 運転免許保有者数・自動車保有台数の推移

(ア) 運転免許保有者数の推移（北海道警察函館方面本部管内）

■ 渡島・檜山管内における運転免許保有者数は、平成 17 年以降減少に転じたものの、保有率については、増加が続いている。

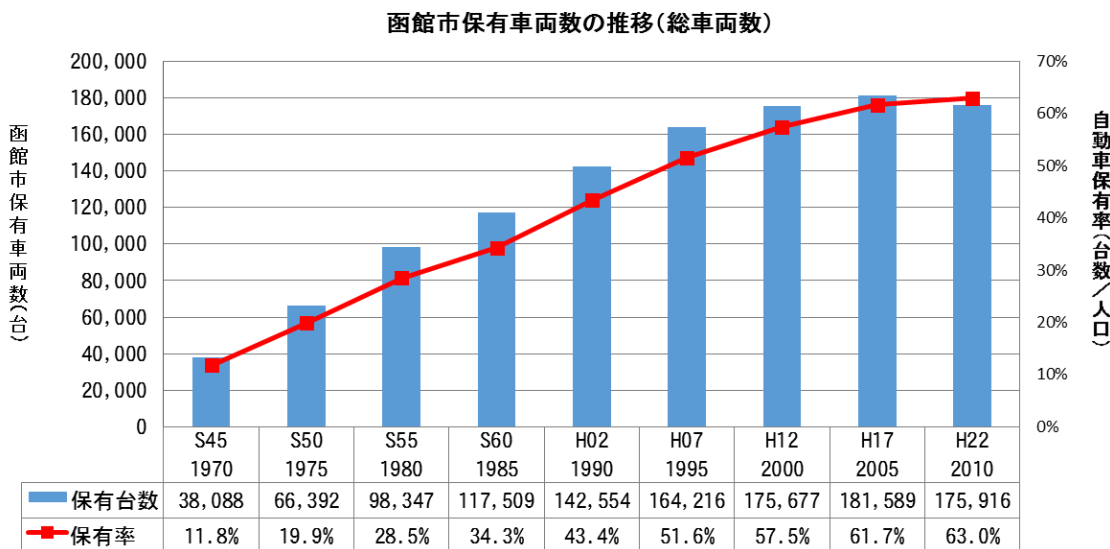


※函館方面本部管内(渡島総合振興局・檜山振興局管内市町村+島牧村・寿都町・黒松内町)

資料：交通年鑑

(イ) 自動車保有台数の推移（函館市）

■ 函館市内における自動車保有台数については、平成 17 年以降減少しているものの、自動車保有率は、増加が続いている。



※旧 4 町村含む

資料：北海道自動車統計